

始

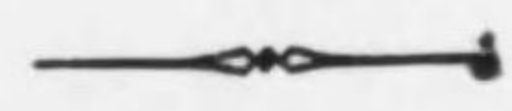


7/109

# 四條通商店街商業調査

調査報告第一號

昭和十四年十一月



京都市立第一商業學校

産業調査部

9  
16



特250.  
418.

399  
446

四條通商店街商業調査

産業調査部

目次

I 調査要綱 ..... 1

    調査範囲—調査事項—調査の實施及整理 ..... 1-2

II 調査結果 ..... 4

    第一 商店街の構成 ..... 4

    第二 業種 ..... 6

    第三 企業組織 ..... 10

    第四 業態 ..... 11

    第五 店舗間口 ..... 12

    第六 店舗所有別 ..... 12

    第七 店舗使用別 ..... 12

    第八 電話 ..... 13

    第九 兼業 ..... 13

    第十 繼續年數 ..... 13

    第十一 店員數 ..... 14

    第十二 加入組 ..... 15

    第十三 視 ..... 15

III 結語 ..... 17







## I 調査要綱

去る六月六日、本校産業調査部が主体となり五年生約百四十名協力のもとに本市随一の繁華商店街四條通りに就き商業調査を行つた。調査の目的は一つには同商店街の現状並に商店経営の現状を明らかにして本市商業界の参考の一端に資したいと考へたのと、一つには生徒をしてこの商業調査を通じて實社會の現實に接し實務の訓練を心得せしめんとするにある。

**調査範囲** 地域は祇園より大宮に至る約二・六軒南北兩側に就いて、之をA區(祇園—四條大橋)、B區(四條大橋—烏丸)、C區(烏丸—大宮)の三區に大別し更に二十六班に細別して調査を行つた。一班には約四乃至六名の調査員を配じ一班の擔當區域は大體南北各通り間一筋宛約半町を基準とした。

**調査事項** 調査は大別して二種類とする。

- 第一 商店街の構成調査
- 第二 商店(物品販賣業)の經營調査

第一の商店街構成調査とは區域内の全戸數に就き店名、業種、無業、空家等を調査するもので、物品販賣業を始め廣義に於ける各種商業、例之金融業、保險業、接客業、娛樂業等につきその分布狀態即ち商店街構成の實地調査を行ふものである。之には各班毎に擔當區域の商店街見取圖を作り之を集成して全調査區域に亘る「四條通商店街一覽圖」を作成した。

【第一圖】 商業調査カード

		區	
氏名		電話	
所在地		隣接	東 西
業種		兼業	
組織	個人 會社		
業態	小賣 卸 卸小賣 製造小賣		
開業年度		繼續年數	
店舖	自己持 借家		
	住宅兼用 店舖専用		
	間口 奥行 坪數		
加入組合	商業組合 同業組合 其ノ他		
従業員	家族 男 女		
	雇人 男 女		
帳簿	單 複 和 洋		
備考			



第二の商店経営調査は区域内にある店舗を有する物品販賣業のみに就き第一圖の如き「調査カード」を使用し、調査員各商店を訪れ各事項につき店主又は店員に質問をなし記入を行ひ商店経営の概要につき實狀を調査せんとするものである。物品販賣業の種類は甚だ多く調査員に於て各業種を混同する惧ある故第一表の如き業種分類表を示して分類の統一を計つた。

尙調査前日には産業調査部の名をもつて、調査区域の各商店に對し調査に就ての援助を乞ふ旨の依頼狀を生徒により配付した。又四條大橋—東洞院間の四條繁榮商業組合に屬する地域の各商店に對しては同組合より特に調査上便宜を圖つて頂いた。茲に深く感謝の意を表する次第である。

**調査の実施及整理** 調査當日は校長の訓辭に次ぎ調査記入の方法等に就き説明をなしたる後午前九時現地向ひ約二時間半を以て調査を完了した。調査事項中主人不在、閉店等のために生じた調査未完了の部分に就ては總計より之を省いた。

カードよりの各項數字の集計には各班長之に當り、更にこの結果を細井、八木の兩名にて整理統合し、又圖表化して發表の運びに至つた。

**【第一表】**

業種分類表

衣料品

- 1 被服
- 2 織物
- 3 綿絲、編物、組物
- 4 履物、雨具類
- 5 小間物、洋品、帽子類
- 6 皮革、擬革製品

食料品

- 7 穀類、粉類
- 8 蔬菜、果實
- 9 魚介類
- 10 鳥獸肉類
- 11 酒類、調味料類、清涼飲料水
- 12 菓子、パン類
- 13 其ノ他食料品

住料品

- 14 木材、竹材
- 15 建具、家具
- 16 石材、煉瓦、土管
- 17 壘表、葦、荒物
- 18 陶磁器、硝子器
- 19 金屬材料、金屬器具
- 20 其ノ他

文化品

- 21 紙、紙製品、文房具
- 22 玩具、運動具、遊戯品
- 23 藥品、染料、顔料、化粧品
- 24 度量衡、科學機械、時計、貴金屬
- 25 新聞、雜誌、圖書
- 26 趣味、娛樂品
- 27 其ノ他

生産用品

- 28 肥料、飼料
- 29 車輛
- 30 機械、器具

脂油燃料

- 31 脂油
- 32 燃料

其ノ他

- 33 各種古物
- 34 其ノ他



## II 調査結果

### 第一 商店街の構成

調査区域の商店街構成を観るに物品販賣業の数は全戸数の約 67% に達し、就中B区は三区中最繁榮商店街を誇る地域だけに数字の上にも如實に之を物語つてゐる。

【第二表】

#### 四條通商店街構成

(實數)

區別	全戸數	物品販賣業	其他ノ商業	工業其ノ他	無業	空家
A區	136	87	31	9	6	3
B區	234	169	57	0	4	4
C區	258	164	53	26	12	3
全區	628	420	141	35	22	10
(%)						
A區	100	64.0	22.8	6.6	4.4	2.2
B區	100	72.2	24.8	0	1.5	1.5
C區	100	63.6	20.5	10.0	4.8	1.1
全區	100	66.9	22.5	5.6	3.5	1.6

其他の商業に於ては食堂、喫茶店、理髮業等の接客業が最も多く銀行等の金融業之に次ぐ。區別に観る時は金融業はB區に多く、接客業はC區に多い。

尙無業の戸數が斯る繁華街に於ても相當數に上るのは傳統を重んずる古都京都の一面を現はすもので、他の大都市の一流商店街には觀られない現象と考へられる。

この調査の結果は「四條通商店街一覽圖」として、巾 50 cm 長さ約 15 m に達する大掲圖に書き、各商店には次項に於て調査せる業種別を衣、食、住、文化、雜品の五大別に色分けして表はし業種分布を一覽し得る如くした。(但し紙面の都合上茲には割愛する。)

【第三表】

#### 其他ノ商業内譯 (物品販賣業以外ノ商業)

業種	區別 内譯	A 區	B 區	C 區	全 區	
					實 數	%
金融業		2	20	5	27	19.1
	銀行	2	10	4	16	
	信託其他	0	2	0	2	
保險業		0	5	1	6	4.3
	百貨店	0	2	0	2	1.4
	連鎖店	0	0	1	1	0.7
交通業		0	2	4	6	4.2
	運送店	0	0	4	4	
	其他	0	2	0	2	
接客業		27	22	40	89	63.1
	飲食店	18	16	27	61	
	カフェー	5	0	3	8	
	理髮業	3	4	8	15	
	寫眞館	1	2	1	4	
	湯屋	0	0	1	1	
	玉突場	2	6	2	10	7.1
遊藝場	0	3	2	5		
計		31	57	53	141	100



第二 業 種

全調査区につき業種別を大別して観れば文化品商最も多く 35.8% を占め、次いで食料品店、衣料品店の順序である。

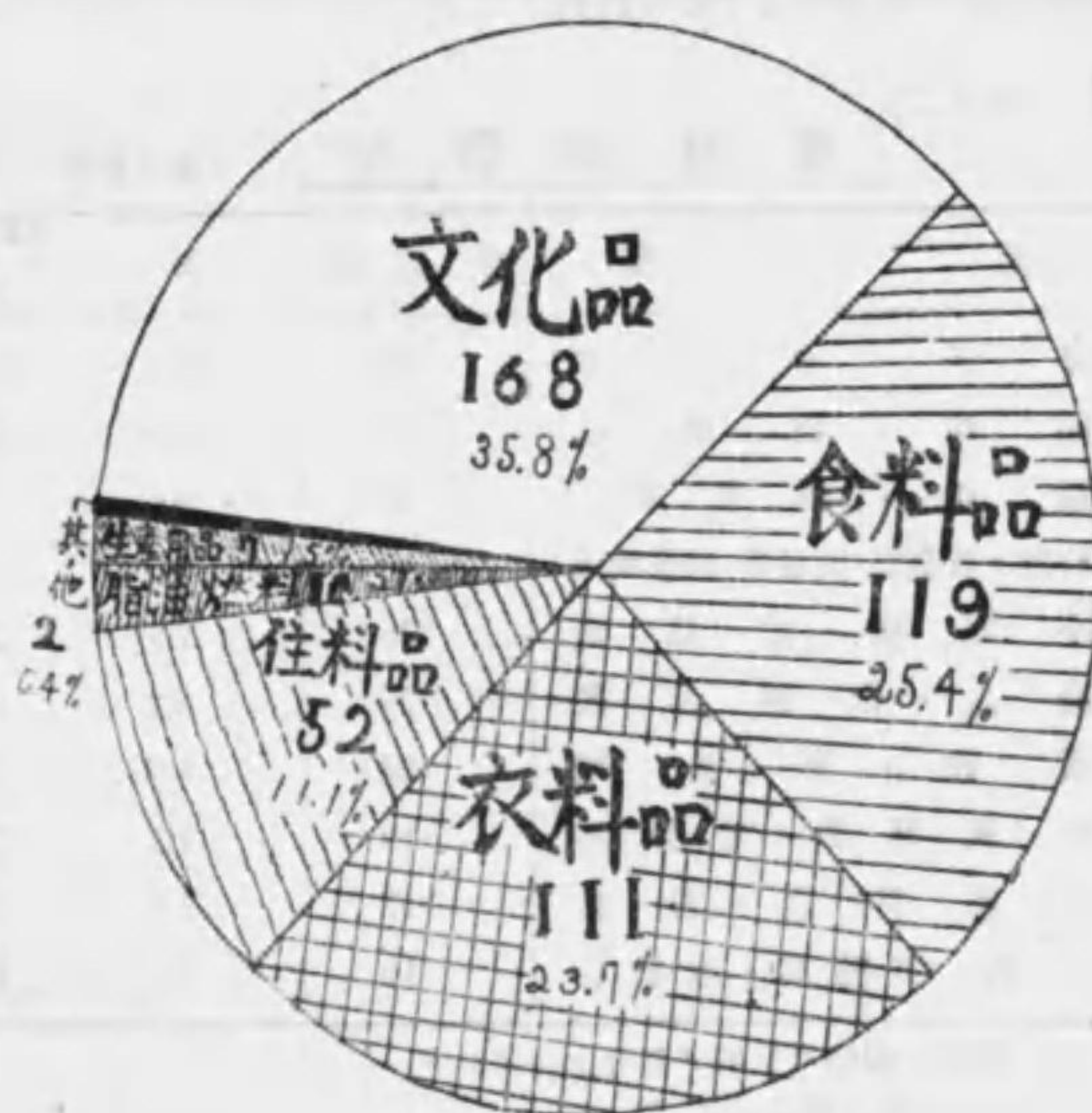
【第四表】 業種別商店数

業 種 別	全 区		A 区	B 区	C 区
	實 数	%			
衣 料 品	111	23.7%	13	53	39
1 被 服	20		0	13	7
2 織 物	22		0	14	8
3 綿糸・絹物・組物	6		0	4	2
4 履物・雨具類	23		5	7	11
5 小間物・洋品類	36		3	18	10
6 皮革・皮革製品	4		0	3	1
食 料 品	119	25.4%	35	21	63
7 穀類・粉類	4		1	0	3
8 蔬菜・果實	12		4	1	7
9 魚介・藻類	8		2	1	5
10 鳥獸肉類	6		1	0	5
11 酒類・調味料・飲料・食料	11		2	3	6
12 菓子・パン類	68		22	16	30
13 其他飲食料品	10		3	0	7
住 料 品	52	11.1%	8	22	22
14 木 材・竹 材	7		1	4	2
15 建具・家具・指物	6		2	2	2
16 石材・煉瓦・土管	0		0	0	0
17 畳表・藁・荒物	2		0	1	1
18 陶磁器・硝子器	11		4	5	2
19 金属材料・器具	17		1	7	9
20 其 他	9		0	3	6
文 化 品	163	35.8%	33	67	63
21 紙・紙製品・文房具	19		4	6	9
22 玩具・遊具・遊藝品	16		4	10	2
23 藥品・化粧品・染料・香料	29		7	7	15
24 時計・金・銀・時計・金・銀	40		3	23	14
25 新聞・雑誌・圖書	10		3	1	6
26 趣味・娯楽品	46		17	18	11
27 其 他	8		0	2	16

【第四表】 (續キ) 業種別商店数

業 種 別	全 区		A 区	B 区	C 区
	實 数	%			
生 産 用 品	7	1.5%	1	2	4
28 肥料・飼料	0		0	0	0
29 車 輛	4		0	1	3
30 機械・器具	3		1	1	1
脂 油・燃 料	2	0.4%	0	0	2
31 脂 油	0		0	0	0
32 燃 料	2		0	0	2
其 他	10	2.0%	6	2	2
33 各種古物	8		4	2	2
34 其 他	2		2	0	0
總 計	469	100%	101	173	195

【第二圖】 業種別商店数 %  
總數 469





今之を京都全市の物品販賣業種別歩合と比較すれば、文化品に於て最も著しく差があり、本調査區への集中性を示し、次いで衣料品である。反之食料品、住料品等に於ては反對の傾向を示し四條通りに乏しい業種である。(第五表其ノ一)

【第五表】 (其ノ一) 業種別歩合

業種	調査區	京都全市*	増減
文化品	35.9%	10.9%	+ 25.0
食料品	25.4%	44.3%	- 18.9
衣料品	23.7%	18.1%	+ 5.6
住料品	11.1%	14.2%	- 3.1
生産用品	1.5%	3.1%	- 1.6
燃料	0.4%	3.7%	- 3.3
其他	2.0%	5.7%	- 3.7
	100.0%	100.0%	

\* 昭和十一年四月三十日現在

更に第十位迄の業種を細別して觀察すれば菓子・パン類店は他都市に於ける調査例と同様詳を抜いて多い。(第五表其ノ二)

【第五表】 (其ノ二) 業種別順位 (第十位迄)

順位	業種	商店數	%	京都全市ニ 対シテ %
1	菓子・パン類	68	14.5	13.0
2	趣味・娯樂品	46	9.9	(3.1) <sup>(2)</sup>
3	織物・被服類 <sup>(1)</sup>	42	9.0	9.9
4	時計・貴金屬・度量衡・科學機械	40	8.5	1.8
5	小間物・洋品類	36	7.7	2.6
6	藥品・化粧品類	29	6.2	4.2
7	履物・雨具類	23	4.9	3.5
8	紙・紙製品・文房具	19	4.2	2.7
9	金屬材料・器具	17	3.6	2.4
10	玩具・運動具・遊戯品	16	3.4	1.0

【註】 (1) 被服、織物ハ比較ノ都合上合併シタ  
(2) 「其他ノ物品」ノ%

各區別に業種の分布を觀ると趣味娯樂品、小間物洋品、藥品化粧品、履物商等は各區を通じて多く、菓子パン商はA・C區に最も多く、呉服商、時計貴金屬商はB・C區に著しく偏つてゐる。(第五表其ノ三) 尙兼業の業種は二種に數へた。

【第五表】 (其ノ三) 區別業種順位

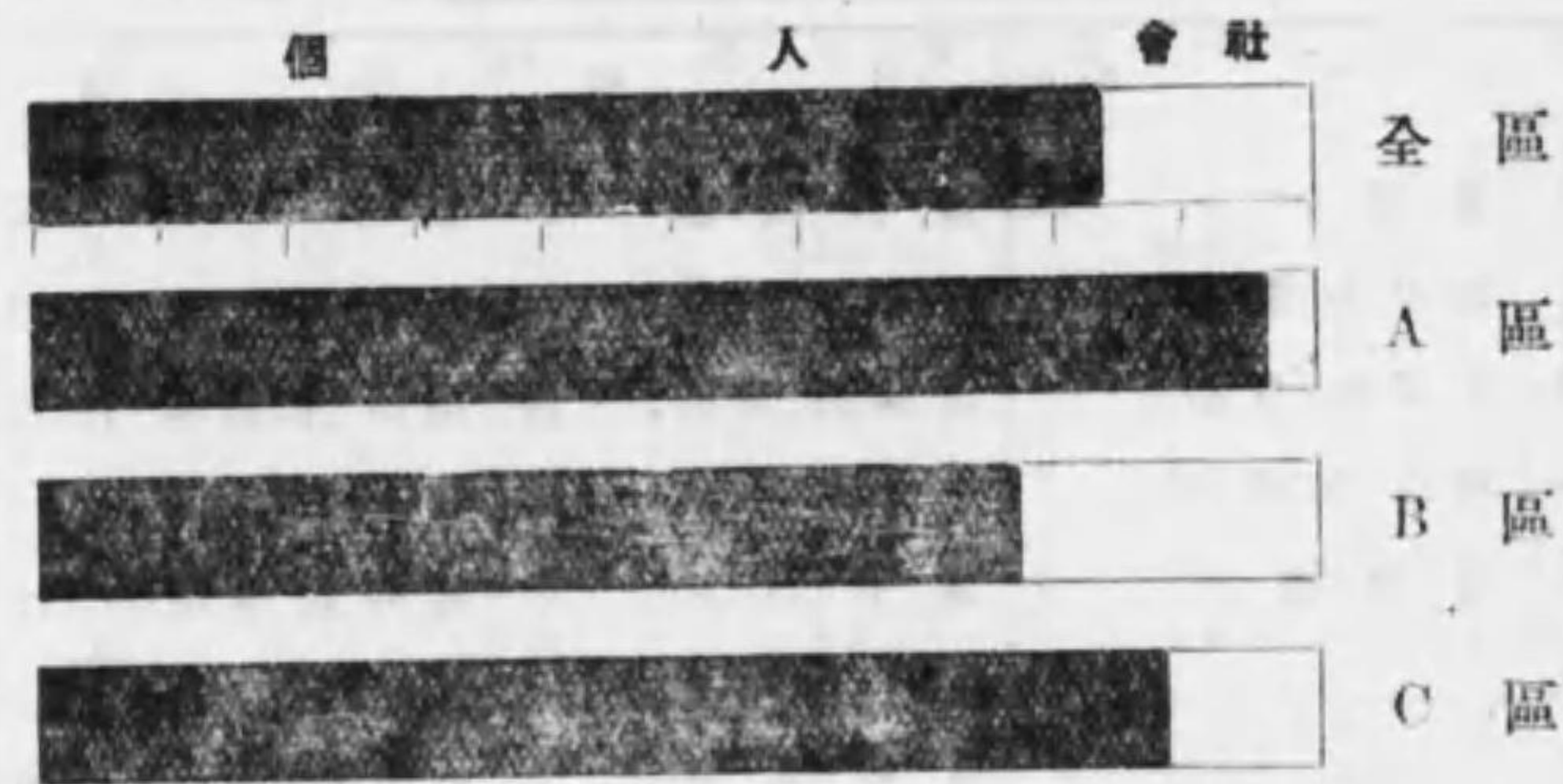
	A 區	B 區	C 區
1	菓子パン 22	織物・被服 27	菓子パン 30
2	趣味娯樂品 17	時計・貴金屬類 23	織物・被服 15
3	小間物・洋品 8	趣味娯樂品 18	藥品・化粧品 15
4	藥品・化粧品 7	小間物・洋品 18	時計・貴金屬類 14
5	履物・雨具 5	菓子パン 16	趣味娯樂品 11
6		玩具・運動具 10	履物・雨具 11
7		履物・雨具 7	小間物・洋品 10
8		藥品・化粧品 7	紙類・文房具 9
9		金屬材料・器具 7	金屬材料・器具 9



### 第三 企業組織

調査総数に対し個人組織は 83.6% で絶対多数を占めてゐる。これを各區別に觀察して見ると、個人商店はA區に最も多く、B區に最も少い。B區は四條通の中心商店街であり大商店軒を並べ、會社組織も最も多数に上つてゐる。

【第三圖】 企業組織別商店數 %



【第七表】

企業組織別

區別	總數	個人		會社				
		總數	%	總數	%	株式會社	合名會社	合資會社
A區	86	75	97.2%	11	12.8%	9	2	0
B區	149	113	75.8%	36	24.2%	12	19	5
C區	162	144	88.9%	18	11.1%	7	6	5
計	397	332	83.6%	65	16.4%	28	27	10

京都全市トノ比較

區域	調査數		個人		會社	
	總數	%	總數	%	總數	%
調査區	397	100%	332	83.6%	65	16.4%
京都市	35,116	100%	32,950	93.8%	2,166	6.2%

### 第四 業態

店舗數を業態別に觀れば小賣商最も多く全体の 67.2% を占め、卸商が最も少い。調査區と京都全市との業態別比較に於ては著しい差異はない。然し小賣業に於て稍々多く、卸業に於て少ないのは繁華商店街としての特徴を現はすものと考へられる。

【第八表】

業態別商店數

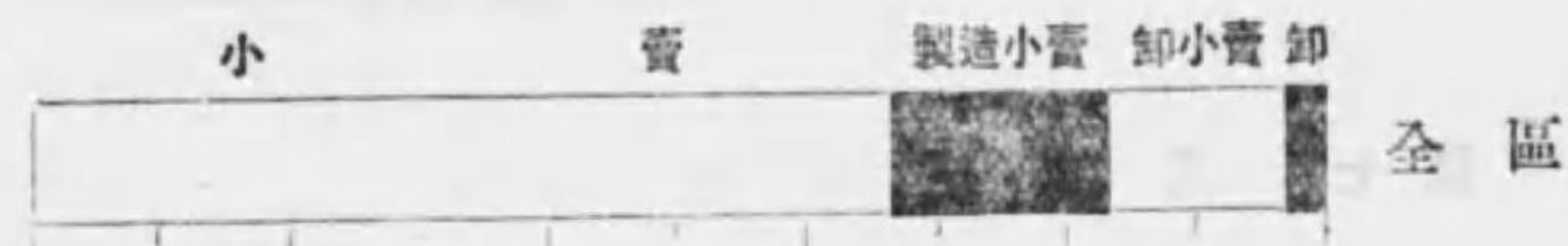
業態	A區	B區	C區	計	%
小賣	66	105	107	278	67.2
卸	2	4	11	17	4.1
卸小賣	8	21	24	53	12.8
製造小賣	17	22	27	66	15.9
	93	152	169	414	100

京都全市トノ比較

區域	總數		卸業		小賣業		卸小賣業	
	營業所數	%	營業所數	%	營業所數	%	營業所數	%
調査區	414	100%	17	4.1%	344	83.1%	53	12.8%
京都市	35,116	100%	2,428	6.9%	28,529	81.3%	4,159	11.8%

(製造小賣ハ小賣業ニ含ム)

業態別商店數 %





### 第五 店 舗 間 口

店舗間口調査戸数は391戸で、総間数1362間、一戸平均3間の割合である。

【第九表】

間 口 間 数 別

區別	間数	間口												計
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
A 區	2	24	27	23	3	3	1	2	0	0	0	0	0	85
B 區	2	25	73	23	10	6	3	2	2	1	0	1	143	
C 區	0	31	78	27	10	4	0	2	0	4	1	1	158	
戸数總計	4	80	178	73	23	13	4	6	2	5	1	2	391	
間数總計	4	160	534	292	115	78	28	48	18	50	11	24	1362	

### 第六 店 舗 所 有 別

店舗所有別により借家と自己持を比較すると借家が65.9%、自己持が34.1%となり、借家が總調査数の約%を占めてゐる。

【第十表】

店 舗 所 有 別

區別	自己持	%	借 家	%
A 區	30	36.6%	52	63.4%
B 區	45	30.2%	104	69.8%
C 區	58	36.5%	101	63.5%
計	133	34.1%	257	65.9%

### 第七 店 舗 使 用 別

店舗使用別により店舗専用と住宅兼用を比較すると住宅兼用が75.9%、店舗専用が24.1%で、住宅兼用が断然多い。尚B區が他の二區に比し店舗専用が多いのは一流商店乃至近代的商店の多いのを示すものと考へられる。

【第十一表】

店 舗 使 用 別

區別	店舗専用	%	住宅兼用	%
A 區	18	21.7%	65	78.3%
B 區	57	37.5%	95	62.5%
C 區	20	12.5%	110	87.5%
計	95	24.1%	300	75.9%

### 第八 電 話

電話数は總計345本で、調査店数420店の中、電話を所有せる戸数は320戸で、調査戸数の76.2%に當つてゐる。電話二個以上を有する店舗は5.5%である。電話所用率に於てもB區が他の二區を引離してゐる。

【第十二表】

電 話 所 有 別

區別	個 数	個 数		計	調査戸数	所 有 率
		1 個 以 上 有 する店	2 個 以 上 有 する店			
A 區	57	3	60	87	69.0%	
B 區	139	12	151	169	88.8%	
C 區	101	8	109	164	66.5%	
計	297	23	320	420	76.2%	

### 第九 兼 業

調査商店420店の内、兼業をなすものは51店で、調査店数の12.1%に當つてゐる。尚これを各區別に觀察する時は、A區13店、B區13店、C區最も多く25店で、各區の調査店数に對する割合は、A區14.9%、B區7.7%、C區15.2%で、百分比に於てもC區が筆頭である。

### 第十 繼 續 年 數

店舗の營業繼續年数の回答戸数は369戸で、何れの區に於ても、20年より



50年に至る継続年数の店舗多く、A、C区各々継続年数「20年以下」の店舗数を分水界としてゐるに反し、B区が年数を増す程その戸数が増加してゐることは同地域が最も古くからの商店街であることを示すと共に傳統を誇る京都の商店の一大特色であらう。各區を通じ50年以上100年、200年以上にも上る老舗も珍らしくない。

【第十三表】 継続年数別

継続年数	A 区	B 区	C 区	計
3年以下	11	11	21	43
5年	1	11	7	19
10年	11	15	18	44
20年	17	17	33	67
30年	15	20	25	60
50年	10	31	28	69
50年以上	11	35	21	67
計	76	140	153	369

### 第十一 店員数

調査店数382の中、店員を使用せざる店は126で33%である。使用する商店中一人使用するものが最も多く、漸次人数を増すにつれ減少する。平均使用店員数は全区を通じ一店當り4.4人で、男女別の割合は略3對1である。

【第十四表】 店員数 (其ノ一)

區別	調査店數	男子		女子		合計	
		人數	一店當り	人數	一店當り	人數	一店當り
A 區	80	269	3.4	114	1.4	383	4.8
B 區	144	616	4.3	245	1.7	861	5.9
C 區	158	364	2.3	86	0.5	450	2.9
全 區	382	1,249	3.3	445	1.2	1,694	4.4

### 使用店員數別商店戶數

【表六十二】

(其ノ二)

店員數	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	15年	20年	30年	50年	100年	計
A 區	33	9	13	5	3	4	1	3	3	0	1	3	0	1	0	1	80
B 區	23	20	15	12	15	10	5	6	5	4	4	15	6	2	1	1	144
C 區	70	31	15	9	5	7	5	1	0	3	0	6	4	1	0	1	158
計	126	60	43	26	23	21	11	10	8	7	5	24	10	4	1	3	382

### 第十二 加入組合

調査商店中何れの組合にも全然加入せざる店数は79で、總數の約19%である。

商業組合と同業組合或は其他の組合に重複して加入してゐる店も相當ある。組合の種類は商業組合が最も多く約86%である。

尙B區の内四條大橋一東洞院間には四條繁榮商業組合が組織され之に加入してゐる商店は約130に上つてゐる。

【第十五表】 組合加入状況

組 合	加入店總數	%	A 區	B 區	C 區
商業組合	304	85.9%	56	140	108
同業組合	33	9.3%	6	10	17
其ノ他	17	4.8%	0	11	6
	354	100.0%	62	161	131
不加入	79		20	17	42

### 第十三 帳簿

使用帳簿は單複別より觀れば、單式が單も多く、複式は約2割強に過ぎない。又和洋別では和式が意外に多く約36%で、結局昔乍らの大帳簿が相當に使用せられてゐるやうである。尙帳簿を全然使用しない店が一刻以上もあり、市一流の商店街に於ても斯る情態であるから、一般小賣商店の會計整理状況は推して知るべきものがある。

各區別に觀る時は、B區が他の二區に比し、矢張り進歩した帳簿を使用してゐる。



【第十六表】

單複別帳簿使用店數

(其ノ一)

區	帳簿	單式	複式	不使用	調査店數
A	區	55	17	9	81
B	區	91	40	18	149
C	區	101	24	16	141
全	區	247	81	43	371
使用歩合		66.6%	21.8%	11.6%	100%

和洋別帳簿使用店數

(其ノ二)

區	帳簿	和式	洋式	和洋折衷	不使用	調査店數
A	區	34	35	0	9	78
B	區	37	86	7	18	148
C	區	60	51	14	16	141
全	區	131	172	21	43	367
使用歩合		35.7%	46.9%	5.7%	11.7%	100%

III 結 語

今回の調査に當つては、調査の便宜上四條通商店街を偶々A・B・Cの三區に分つて調査したのであるが、調査の結果を観るにA・B・Cの各區はそれぞれ相互に特徴ある商店街をなしてゐる事が實証された。即ちA區は円山公園、祇園を控へ所謂観光コースの一環をなす地域、B區は市中第一の買物中心街として一流商店櫛比し都人往來最も繁き近代的商店街をなし、反之C區は比較的觀光的色彩に乏しく所謂普通の商店街であることは常識的に一般市民の知るところであるが、此度の調査により業種、組織、店舗等々各種事項を調査するに従ひ、統計的に一層明確に以上の事實が裏書されたものと考へる。

以上調査の結果を綜合することにより、本調査の目的たる四條通り商店街の現状並に商店經營の實態を略々察することが出来るものと信ずる。

素より斯る調査は本校として最初の試みであり、計劃、指導にも粗漏の点多々あり結果に就ても勿論不完全を免れないものである。

然し乍ら現下中小商工業問題、特に小賣業問題の激化の折柄、當局では小賣商免許制度につき愈々具体的審議を進めて居り、各都市に於てもその基礎調査として従來調査至難とされてゐた小賣業の實狀調査を計劃して居る。他方本年八月一日の臨時國勢調査に於ては國民消費調査の方法として、全國物品販賣業者の販賣調査を行ふ等、此種調査資料の渴望せられて居る際に當り、拙きこの調査報告が何等かの方面に於て幾分たりとも貢獻し得るならば望外の幸とするところである。

最後に本調査に當り理解ある御支援を賜つた商店各位に深く謝意を表する次第である。

昭和十四年六月二十五日

産 業 調 査 部

- 5 E 細 井 一 男
- 5 B 八 木 正 三
- 5 A 伊東、木村、澤村、増田、山崎、信氏  
上原、林、谷口
- 5 B 宇都宮、林、山口、樹田、杉野
- 5 C 小島、竹村、東松
- 5 D 三ツ橋、安藤、山下、内田、李、三宅  
福井
- 5 E 丹土、松浦、出口
- 理事 山 本 久 三 郎
- 同 水 野 良 象



昭和十四年十一月五日印刷  
昭和十四年十一月十日發行

【非賣品】

京都市中京區西ノ京中合町  
京都市立第一商業學校産業調査部

編輯者 山本久三  
發行所 水野良象

京都市中京區三條通柳馬場東  
合資會社點林堂印刷所  
京都市立第一商業學校

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百



特 250

418

終

39

4